

学生の主体的な看護技術の修得を目指した授業の効果と課題 －プレテストと技術評価表を導入して－

山内 麻江

了徳寺大学 健康科学部看護学科

要旨

本研究の目的は、学生の主体的な看護技術の修得を目指し、「看護技術Ⅱ」の授業に導入したプレテスト、及び技術評価表を使用した演習方法の効果や課題を明らかにすることである。2年次生114名の学生を対象に、最終講義時、「プレテストと技術評価表に対する看護技術の修得効果について」の無記名自記式質問紙調査を実施した。その結果、86%の学生がプレテストは技術の修得に役に立ったと回答し、プレテストが予習の動機づけになった、予習した内容の自己評価ができた、知識が身についたと評価した。また、技術評価表を使用した演習方法についても、84.2%の学生が技術の修得に役に立ったと回答し、自己の技術修得上の課題が明確になった、技術の手順や要点が理解できた、技術練習に意欲的に取り組めたと評価した。今後はプレテストの難易度や実施時期の検討、技術評価表の改善を行い、より効果的な教育実践を目指すことが求められる。

キーワード：予習、看護学生、診療に伴う援助技術

Benefits and problems of courses for independent learning of nursing techniques - With an introduction of both the pre-test and technology assessment sheet -

Asae Yamauchi

Department of Nursing, Faculty of Health Science, Ryotokuji University

Abstract

This study aimed to clarify the benefits and problems of both the pre-test, which was introduced in a course, “Nursing Technique II,” and an independent learning method using a technology assessment sheet for nursing techniques. We performed an anonymous self-recorded questionnaire survey with 114 second-year students on the “effects of both the pre-test and technology assessment for learning nursing techniques.” As a result, 86% of the students answered that the pre-test was useful for learning nursing techniques. They were motivated by the pre-test to prepare for the next lesson and they could make a self-assessment about the details of their preparation and learn new things. In addition, 84.2% answered that the learning method with use of the technology assessment sheet was also useful for learning new techniques. Furthermore, their problems in acquiring techniques became clear, and they could understand the procedures and important points of the techniques and enthusiastically obtain the technical training. In the future, more effective education can be achieved by examining the difficulty level, timing of the pre-test, and improving the technology assessment sheet.

Keywords: Preparation, nursing student, technical assistance required for treatment

I. はじめに

近年高等教育の授業改善において、学生の主体的な学びを引き出す学習形態であるアクティブラーニングの必要性が指摘されており¹⁾、グループワーク、ディスカッション、プレゼンテーションなどを取り入れた授業が増えている²⁾。アクティブラーニングで授業を行う際には、学生たちの予習し議論に備える姿勢、知識を主体的に学ぼうとする姿勢が必要となる。しかし、2016年にベネッセが全国約5千人の大学生を対象に、大学教育についての考え方を調査³⁾した結果によれば、「学生が自分で調べて発表する演習形式の授業が多い方がよい」と回答した学生（21.3%）より、「教員が知識・技術を教える講義形式の授業が多い方がよい」と回答した学生（78.7%）の方が多く、大学での学習方法についても、「学生が自分で工夫するのがよい」より、「大学での授業で指導をうけるのがよい」と考える学生が、39.3%（2008年）から、50.7%（2016年）に増加していた。ベネッセによる全国調査同様に、近年では、筆者の担当する演習形式をとる看護技術の授業においても、授業中の学生の反応は乏しく、受け身的で、指示されなければ学生自ら技術を練習しないといった消極的な態度を示すことが多かった。そのため、学生の主体的な学びを引き出す授業方法を検討する必要性を強く感じていた。

看護基礎教育で修得すべき看護技術には、「対人関係の技術」「看護過程を展開する技術」「生活援助技術」「診療に伴う援助技術」などがあり、筆者の担当する授業「看護技術Ⅱ」は、診療に伴う援助技術を主な内容としている。看護技術の修得過程には、「知る段階」「身に着ける段階」「使う段階」があり³⁾、学生は学内の講義・演習と臨地実習を経て、看護技術を看護実践能力として形成的に自己のものとしていく。しかし、診療に伴う援助技術の多くは、患者にとって身体侵襲の大きい技術であることから、臨地実習で学生が実施できる機会は限定されており、看護基礎教育段階では、「使う段階」での修得は困難な状況にある。看護技術の習得には、臨地実習での経験回数が大きく影響するという報告⁴⁾もあり、診療に伴う援助技術においては、「知る段階」「身に着ける段階」である学内の講義・演習が重要な位置づけになると言えよう。

学内での講義・演習では、技術の概要・目的・方法を理解し、原理・原則に基づいた技術の実施が求められ、限られた授業環境下での技術の修得には、授業の予習を行い、主体的に学ぼうとする姿勢が必要不可欠と考える。しかし、筆者が実施している学生面談時の聞き取りにおいては、多くの学生が、試験勉強や授業の復習は行うが、予習を行う習慣はないと回答していた。予習の効果については先行研究^{5) 6)}で実証されており、予習をすることで、授業内容の理解が促進され、学生が興味を持って授業に臨むなどの学習意欲につながることが報告されている。

そこで「看護技術Ⅱ」の授業では、講義開始時にプレテストを行い、学生の予習の強化を図り、講義の後に続く演習で、技術評価表を使用し、手順を1つ1つ評価しながら技術の修得を目指し練習することを強化した。本稿では、最終講義終了時に実施した学生の質問紙調査の結果から、プレテストと技術評価表を導入した授業の効果と今後の課題を報告する。

II. 目的

本研究の目的は、学生の主体的な看護技術の修得を目指して、今年度授業に導入した、予習した知識を確認するためのプレテスト、及び技術評価表を使用した技術演習方法の効果や課題を明らかにすることである。

Ⅲ. 方法

1. 研究対象者

平成30年度「看護技術Ⅱ」を履修した2年次学生119名を研究対象者とした。

2. データ収集および分析方法

研究に同意が得られた学生114名に対して、「看護技術Ⅱ」の最終講義時に、「プレテストと技術評価表に対する看護技術の修得効果について」の無記名自記式質問紙調査を集合調査法で実施した。質問紙（資料1）は全部で31項目であり、そのうち22項目は選択形式、9項目は自由記載形式をとり、分析方法は単純集計とした。

3. 看護技術Ⅱの授業概要

「看護技術Ⅱ」は、2単位60時間で2年次前期の必修科目であり、基礎看護学実習Ⅱの先修条件科目でもある。主に診療に伴う援助技術に関する内容であり、基本的にはそれぞれの技術項目に対して、講義を行った後に演習（学内実習）を行う授業形態をとっている。講義は1名の教員が実施し、技術演習は7～8名の教員が指導を行う。技術演習の際は、学生3名で1ベッドを使用し、教員1人当たり2～3ベッドを担当する。

4. 予習の指示及びプレテストの内容

「看護技術Ⅱ」の授業の予習として、授業の該当範囲のテキスト⁷⁾を読み、付属の技術動画を視ること、学習教材として指定した看護技術ドリル⁸⁾の該当範囲を学習してくることを指示した。プレテストは主に予習した該当範囲のドリルから出題し、毎講義開始時に5分程度で解答可能な○×式の問題10問を実施した。尚、プレテストの点数は評価対象とした。

5. 技術評価表

技術評価表は、演習で実施予定の技術13項目に対して、授業で使用しているテキスト内にある手順をもとに作成した。評価者は、同じグループメンバーの学生とし、評価表を使用した技術練習の実施については、グループの担当教員の確認を得ることを指示した。1回の演習に、原則2回、一連の手順で実施した技術項目について評価を行うように指示した。尚、演習終了後の評価表の提出は評価対象とした。

Ⅳ. 倫理的配慮

研究の対象者には口頭及び書面にて、研究の目的と方法、研究参加は自由意志とし、研究参加の有無は成績と無関係であり、評定等の不利益が生じないことを説明した。また、研究データは研究目的以外には使用せず研究者が保管すること、研究に同意した後も自由に取りやめることができ、その際何ら不利益が生じることはないこと、研究の公表に当たっては個人が特定できないようにすること等について説明し、同意書にて研究参加の同意を得た。

本研究の実施に関しては、了徳寺大学生命倫理審査委員会から承認（承認番号3014）を得ており、本研究における利益相反は存在しない。

Ⅴ. 結果

1. 予習について

「看護技術Ⅱ」の授業（講義・演習）には、111名（97.4%）が予習をしてから臨んだと回答し、3名（2.6%）が予習をしなかったと回答した。平均予習時間が30分以内と回答した学生は、64名（56.1%）であり、1～2時間と回答した学生は45名（39.5%）、2～3時間と回答した学生は1名（0.9%）であった（図1）。予習

に使用した学習教材については、指定したドリルが107名（93.9%）、テキストが36名（31.6%）、テキスト付属の動画が11名（9.6%）、参考書（Web教材も含む）が4名（3.5%）、その他が2名（1.8%）であった（図2）。予習の効果については、授業の理解度が上がったと回答した学生が103名（93%）、授業に対する興味・関心が増すなどの学習意欲が湧いたと回答した学生が83名（62%）、問題意識を持って授業に臨めたと回答した学生が69名（62%）、知識・技術の定着につながったと回答した学生が100名（90%）であった（図3）。一方、予習をしなかった3名は、予習をすることで授業の興味が薄れると思った（2名）、予習は面倒くさいと思った（2名）と回答（複数回答あり）した。

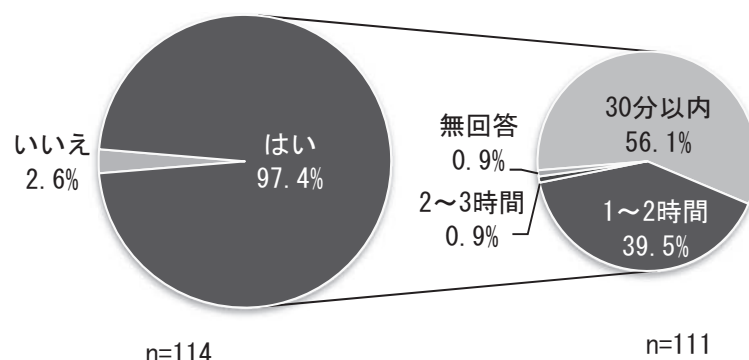


図1 授業前の予習の有無と平均予習時間

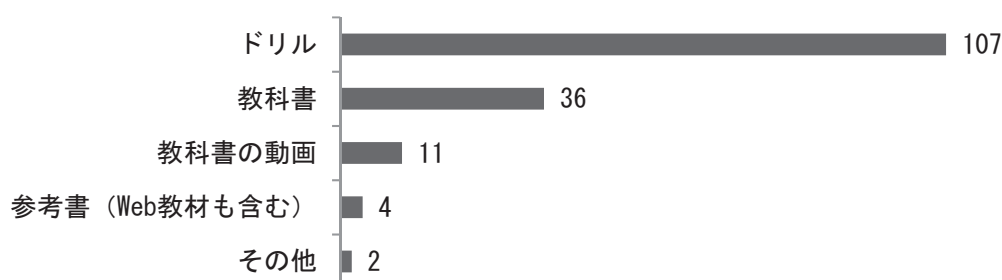


図2 予習に使用した教材（複数回答） n=111

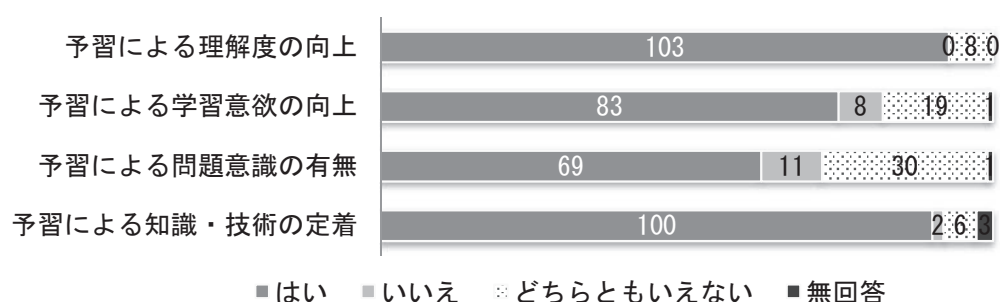


図3 予習の効果 n=111

2. ドリルについて

予習にドリルを使用したと回答した学生107名中、98名（91.6%）がドリルは授業の予習として効果的であったと回答した（図4）。ドリルが効果的であったと回答した理由として、授業内容の理解に役立った（25名）、使用したドリルの内容・形式が良かった（23名）、技術の理解に役立った（21名）、予習する動機づけになった（7名）、プレテスト対策になった（5名）、思考力がついた（2名）、分からない単語を積極的に

調べるようになった(1名)などを挙げていた(表1)。一方、ドリルは授業の予習として効果的ではなかった、どちらともいえないと回答した9名の理由としては、ドリルの問題が教科書に載っていなかったり、授業で触れなかったため(1名)、あまり授業の内容と結びつけられなかったため(1名)、学んだことを踏まえて解く問題であるため予習には不向きだと思ったため(1名)、直前の学習が多く長期的な定着ではなかったため(2名)、どうせ答えをうつすから(1名)などが挙げられた。

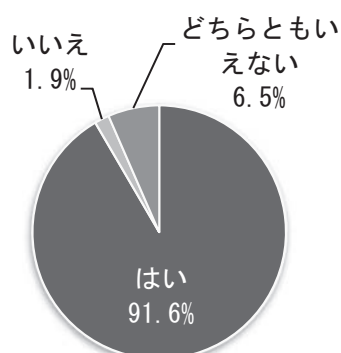


図4 ドリルは授業の予習として効果的だったか n=107

表1 ドリルが効果的であったと回答した理由 (自由記載)

授業内容の理解に役立った (25 名)	
使用したドリルの内容・形式が良かった (23 名)	分かりやすい内容だった (10 名)
	要点がまとまっていた (7 名)
	テスト形式で勉強しやすかった (5 名)
	1 回分の分量がよかった (1 名)
技術の理解に役立った (21 名)	技術の概要が理解できた (12 名)
	技術の根拠を理解できた (6 名)
	知識の定着につながった (3 名)
予習する動機づけになった (7 名)	
プレテスト対策になった (5 名)	
思考力がついた (2 名)	
分からない単語を積極的に調べるようになった (1 名)	

3. プレテストについて

プレテストが、技術の根拠や手順の確認など技術の修得に役に立ったと回答した学生は、98名(86%)であった(図5)。役に立ったと回答した理由に、プレテストが予習の動機づけになった(24名)、事前学習した内容の自己評価ができた(14名)、授業内容の理解に役立った(11名)、知識が身についた(10名)が挙げられた。一方、プレテストは技術の根拠や手順の確認など技術の修得に役に立たなかったと回答した学生は、1名(0.9%)、どちらともいえないと回答した学生は15名(13.2%)であった。役に立たなかった・どちらともいえないと回答した理由は、問題が簡単だったから(3名)、復習の確認として行いたかったから(2名)、知識は身についたが、技術の修得には至らなかったから(2名)、一時的な記憶であったため(1名)であった。

また、プレテストの難易度や問題数については、概ね妥当であったと回答した(図6, 図7)。

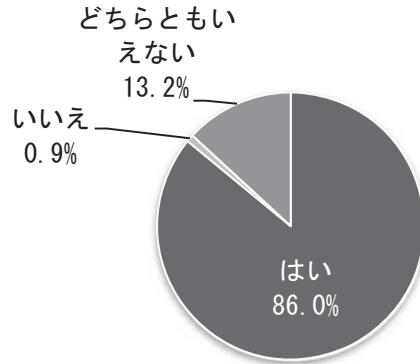


図5 プレテストは技術の修得に役にたったか n=114

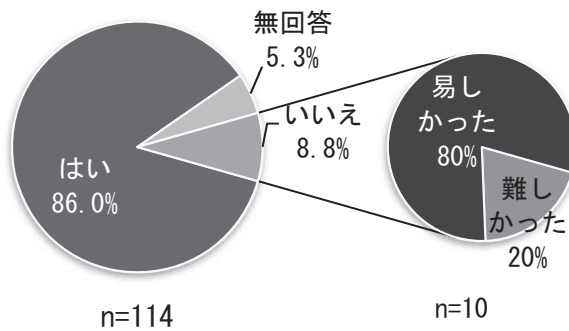


図6 プレテストの難易度の妥当性

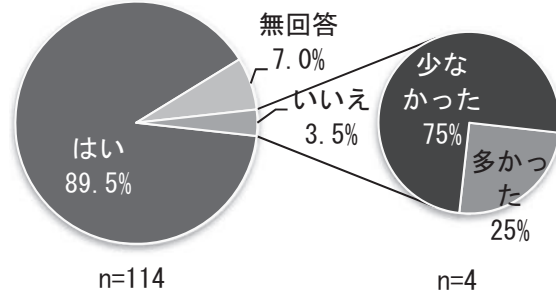


図7 プレテストの量の妥当性

4. 技術評価表について

技術評価表を使用した演習方法が、技術の修得に役に立ったと回答した学生は、96名（84.2%）であった（図8）。役に立ったと回答した理由に、自己の技術修得上の課題が明確になった（26名）、技術の手順を理解することができた（21名）、手順の確認が客観的に行えた（12名）、技術の要点が理解できた（7名）、技術練習に意欲的に取り組めた（2名）などの自由記載が見られた。一方、技術評価表を使用した演習方法は技術の修得に役に立たなかったと回答した学生は14名（12.3%）であり、役に立たなかった理由として、評価表が使いづらかったから（4名）、評価表の内容がわかりにくかったから（3名）、評価表を使用することで混乱したから（1名）、評価表が無くてもテキストだけで修得できたため（1名）、評価表で指定した実施回数が不足していたため（1名）、無回答（4名）が挙げられた。また、友達同士では正当な評価にならない、教員に技術を評価して欲しい、評価の基準が人により異なる、といった自由記載が見られた。

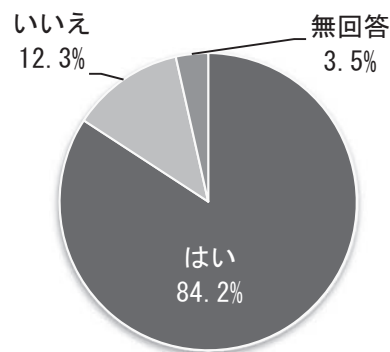


図8 技術評価表は技術の修得に役に立ったか n=114

5. 技術練習について

授業時間以外の技術練習の実施については、22名(19.3%)が自主的に練習しており、練習回数については、1,2回と回答した学生が16名(72.7%)、3,4回と回答した学生が6名(27.3%)であった(図9)。一方、自主的に練習を行わなかったと回答した学生は、91名(79.8%)であり、行わなかった理由の1番は、時間が無かったから(59名)と回答し、次いで、面倒くさかったため(12名)、練習方法が分からなかったから(7名)と続いた(図10)。

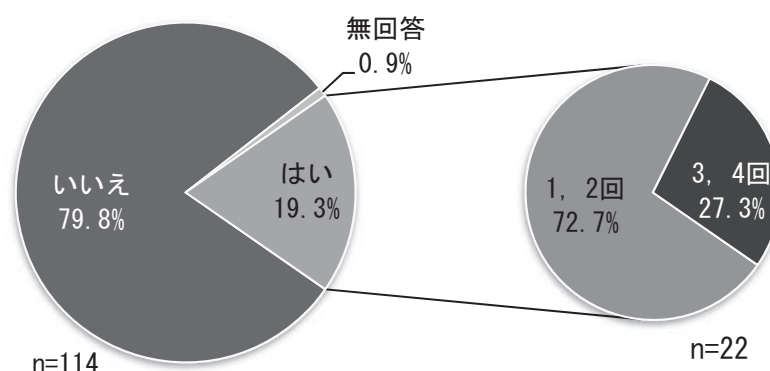


図9 授業時間以外の技術練習の有無と練習した回数

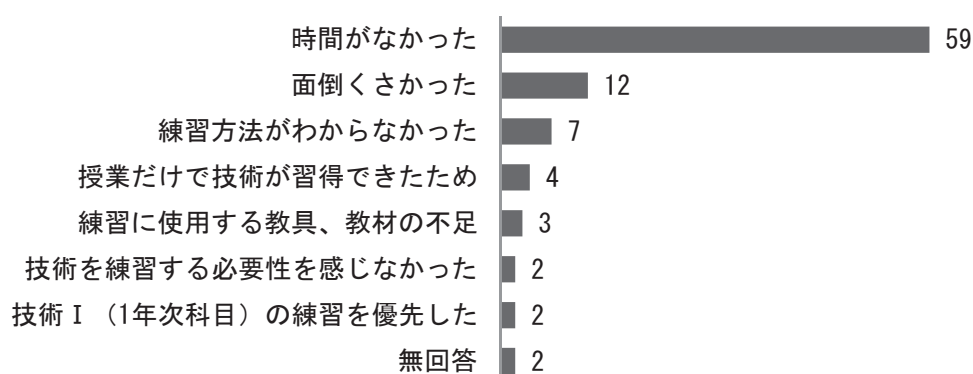


図10 練習を行わなかった理由 n=91

6. 技術の修得について

授業で学んだ診療に伴う援助技術の原理・原則が修得できたと回答した学生は98名(86%)であり、できなかったと回答した学生は2名(1.8%)、どちらともいえないと回答した学生は12名(10.5%)であった(図11)。できなかった・どちらともいえないと回答した理由については、一度の授業だけでは不安なので何回も繰り返し練習をする必要があると思ったから(6名)、修得できたという自信が持てないから(2名)などであった。

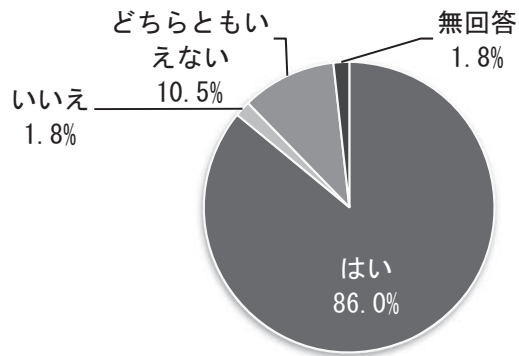


図11 診療に伴う援助技術の原理・原則は修得できたか n=114

VI. 考察

1. 予習の実施

「看護技術Ⅱ」の授業に予習をして臨んだ学生の割合が97.4%と高かった理由としては、毎講義開始時に、予習用の学習教材として使用した看護技術のドリル（テスト形式のワークブック）の内容からプレテストを実施し、その結果を評価点に加えたことが大きく影響したものと考えられる。評価の対象となるプレテストを実施したことにより、悪い成績で単位を落とすことになるのは避けたい、予習を行いプレテストで良い点数を得て単位の修得につなげたいという結果に対する期待が加わり、予習の実施につながったと考えられる。また、プレテストの問題数を少なくし難易度を低く設定したことは、学生の「これなら点数が取れそうだ」と思えるような期待感の高まりとなり、予習を継続する力にもなったと考えられる。

また、「看護技術Ⅱ」で学修する授業の内容は、主に診療に伴う援助技術であり、中でも包帯法や注射、採血などの技術は、学生にとって興味を示す程度が高い技術⁹⁾である。加えて臨床では実施頻度の高い技術でもあるため、「看護技術Ⅱ」で学修する内容は、看護師の仕事に直結するものと言える。市川は学生の学習動機を「充実志向」「訓練志向」「実用志向」「関係志向」「自尊志向」「報酬志向」の6つに分類¹⁰⁾している。学生にとって、「看護技術Ⅱ」の授業は、仕事に生かすために学ぶ「実用志向」の動機づけが高い科目であったことから学習行動につながったと考えられる。

2. 予習に使用した学習教材

初回の授業時に各回の授業の予習指示として、授業で使用するテキストの該当箇所を読んでおくこと、テキストに付属する技術の動画を見ておくこと、看護技術ドリルの該当箇所をやってくることを指示した。アンケートの結果、ドリルの使用率は93.9%と高かったが、テキストの使用率は31.6%と半数にも満たなかった。ドリルの使用については、授業の予習として効果的であったと91.6%が評価しており、使用したドリルの内容・形式が良かったと評価する学生が多かった。教材として採用したドリルは、1つの技術項目が見開き1ページの分量で要点が整理されており、テスト形式で問題を解きながら理解できる内容であったため、予習するのに学習しやすかったものと考えられる。一方、テキストの使用率が低い理由としては、中高生の文章読解力の低下が指摘¹¹⁾されているようにテキストの内容を読みとることへの困難感やドリルを優先したことによる学習時間の不足などが推測される。予習が授業理解に与える影響を調査した研究⁵⁾の結果として、テキストを読んで予習を行い、知識を先に得ておくことで、授業ではその背景因果に注意を向けることができ、理解が促進されたという報告がある。そのため、「看護技術Ⅱ」の授業前に、授業で実施する技術の概要や目的、手順などを先に読んでおくことで、細かな手順や技術の根拠などの理解が

促進できると考えられる。今回のアンケート結果から、ただテキストを読むように指示するだけでなく、学生がテキストの記述を正確に読みとり、技術の概要や目的を把握するための具体的な予習方法を提示する必要性が把握できた。本研究結果をもとに一案を検討すると、今後は技術の概要や目的、看護の役割をノートやプリントに外化させ、記述した文章を読解するための学習を指示し、テキストの記述内容が正確に読み取れるような予習指導が必要と思われる。

3. プレテスト及び技術評価表の効果と課題

今年度の授業では、技術の根拠や手順などを事前に理解し、興味関心を持って主体的な授業への参加を促すことを目的にプレテストを実施した。アンケート結果から、プレテストは看護技術の修得に有用であったと考えられる。また、プレテストが予習の動機づけとなり、予習した内容の自己評価ができたという回答から、学生の主体的な授業への参加を促す効果もあったものと考えられる。プレテストおよびポストテストと成績との関連を調査した研究結果^{12) 13)}においても、プレテストの実施が講義への期待と集中を高めることや学習効果の向上に役立つツールであると報告している。

プレテストの今後の課題としては、問題が簡単だった、復習の確認として行いたかったなどの意見もあり、出題する問題の難易度を上げることや実施時期を毎講義開始時から毎演習終了時に実施するなど、より効果的な方法を検討していく必要がある。

また、今年度の授業には、1つの技術項目に対し、手順を1つ1つ評価しながら2回練習することで、技術の修得を図ることを目的に、技術評価表を使用した演習方法も導入した。技術評価表を使用した技術の演習方法についても、看護技術の修得に概ね効果があったと考えられる。看護教育においては、行動目標を表現したチェックリスト形式の技術評価表を使用し、技術の習得状況を確認することが望ましいとされ¹⁴⁾、看護技術の習得に役立てられている^{15) 16)}。

技術評価表の今後の課題としては、評価表の内容がわかりにくい、評価の基準が人により異なる、といった評価表の使いづらさに対する意見も見られたため、今後は使いやすさを検討していく必要がある。今回評価基準を、良くできた◎、できた○、できなかった×の3段階としたため、良くできたときたの違いが不明確であったことが推測される。今後は、できた・できない、の2段階評価とすることや教員による評価の実施も検討する。また、各技術の行動目標表現の見直しを行い、それぞれの技術の原理・原則は押さえつつも、記載している手順が細かすぎないような改善が必要である。

4. 学生の主体的な技術修得を目指して

授業時間以外での技術練習について質問したところ、約8割の学生が自主的に練習を行わなかったと回答した。行わなかった理由の1番は、練習時間の確保が困難であったことが挙げられていた。2年次生のカリキュラムは過密であるため、空コマが少ないことや空コマがあっても比較的1限の時間に多かったこと、放課後はアルバイトやクラブ活動があることなどから、自主的な練習を実施するまでには至らなかったと考えられる。また、診療に伴う援助技術は、2年次の臨地実習では実施しないことや3年次の領域別実習においても実施の機会は限定されることから、授業時間以外に自主的に練習する動機づけとしては低い状況にあったものと考えられる。しかし技術の修得には、反復練習が不可欠であるため、今後はできるだけ演習時間内での技術の実施回数を増やしていくことや、就職に向けた準備として、卒業前の時期に練習する機会を設定するなどの検討も必要である。

看護に必要な知識やスキルは医療の発展とともに変化しており、より良い看護を行うためには、自ら学び続け最新の成果や技術を修得していくことが求められる。学生が主体的に技術の修得を目指して行きた

めには、技術を実施するにあたっての看護師の責任や患者の安全を確保する義務をしっかりと認識することが重要である。今後は授業の中で、患者に安全で正確な技術を実施するための看護師としての責務を考えさせることを強化し、学生が技術の修得に価値を見出し、主体的に学べる教育実践が求められる。

VII. 結語

今年度の授業に、学生の主体的な看護技術の修得を目指し、予習した知識を確認するためのプレテスト、及び技術評価表を使用した技術演習方法を導入した。最終講義終了時に実施した学生の質問紙調査の結果から、プレテストの実施や技術評価表を使用した技術の演習方法は、看護技術の修得に概ね効果があったことが示された。また今後の課題として、プレテストの難易度や実施時期の検討、技術評価表の改善の必要性が示された。

謝辞

本研究を実施するにあたり、調査にご協力いただきました学生の皆様に感謝いたします。

文献

- 1) 中央教育審議会：新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて～生涯学び続け、主体的に考える学生へ～，文部科学省ホームページ，
http://www.mext.go.jp/component/b_menu/shingi/toushin/_icsFiles/afieldfile/2012/10/04/1325048_1.pdf2012（2018.10.29 16:00アクセス）
- 2) ベネッセ総合教育研究所：第3回 大学生の学習・生活実態調査報告書 ダイジェスト版 [2016年]，ベネッセホームページ，<https://berd.benesse.jp/koutou/research/detail1.php?id=5169>
（2018.10.29 17:00アクセス）
- 3) 薄井坦子（1974）科学的看護論，日本看護協会出版会，東京，63.
- 4) 折山早苗，岡本亜紀（2015）看護学生の実習での技術経験の実態と主観的到達度に影響を及ぼす因子—中国地方の複数の看護系教育機関を対象とした分析—，日本看護科学会誌，35，127-135.
- 5) 篠ヶ谷圭太（2008）予習が授業に与える影響とそのプロセスの検討—学習観の個人差に注目して—，教育心理学研究，56,256-267.
- 6) 小磯京子，長島緑（2013）看護学生の自己教育力を高めるための学習方法の検討—小課題達成積み上げ学習法を取り入れた学生の感想の分析—，医療保健学研究，4,41-50.
- 7) 任和子，有田清子，有田秀子ほか（2017）系統看護学講座 専門分野Ⅰ基礎看護技術Ⅱ，医学書院，東京.
- 8) 登内秀子，伊藤睦美，石橋絵美（2016）実習までにやっておきたい！基礎看護技術まとめドリル2—治療・処置・検査に伴う技術編—，宣広社，東京.
- 9) 小林淳子，伊藤尚子，塩飽仁ほか（1993）看護学科学生の基礎看護技術に対する興味，東北大学医療技術短期大学部紀要，2（2），127-136.
- 10) 市川伸一（2018）現代心理学入門 学習と教育の心理学，（増補版），岩波書店，東京，19-21.
- 11) 新井紀子（2018）AI vs. 教科書が読めない子どもたち，東洋経済新報社，東京，184-218.
- 12) 鈴木龍太，藤本司，松本清（2000）講義中に行った pre-test および post-test と総合成績との関連，医学教育，31（6），473-476.

- 13) 田中早織, 高野美菜, 幸田祐佳ほか (2017) 講義前後に行ったプレテストおよびポストテストと定期試験成績との相関, 大阪薬科大学紀要, 11, 25-30.
- 14) 佐藤みつ子, 宇佐美千恵子, 青木康子 (2015) 看護教育における授業設計第4版, 医学書院, 東京, 97.
- 15) 大川美千代, 佐々木かほる, 金谷悦子ほか (2005) 基礎看護技術習得のための学生の自主的学習活動－学生による教材選択の実態－, 群馬県立医療短期大学紀要, 12, 57-67.
- 16) 三宅真由美, 土井英子, 杉本幸枝 (2006) A 短期大学看護学生のカリキュラム変更後の援助技術自己評価－チェックリスト使用による役立ちとその課題から－, 新見公立短期大学紀要, 27, 151-158.

資料 1						
プレテストと技術評価表に対する看護技術の修得効果についてのアンケート						
問1～問31までの質問にお答えください。該当するものまたは一番近いものに○を付けてください。						
予習について	問1	看護技術Ⅱの授業(講義・実習)には予習をしてから臨みましたか。	1: はい	2: いいえ		
	問2	問1で「はい」と答えた方のみお答えください。予習に使用したものを全てお選びください。	1: 教科書	2: 教科書の動画	3: ドリル	4: 参考書(Web教材も含む) 5: その他
	問3	問1で「はい」と答えた方のみお答えください。平均予習時間をお選びください。	1: 30分以内	2: 1～2時間	3: 2～3時間	4: 3～4時間 5: 4時間以上
	問4	問1で「はい」と答えた方のみお答えください。予習を行ったことで授業(講義・実習)の理解度が上がったと思いますか。	1: はい	2: いいえ	3: どちらともいえない	
	問5	問1で「はい」と答えた方のみお答えください。予習を行ったことで、授業に対し興味関心が増すなどの学習意欲が湧いたと思いますか。	1: はい	2: いいえ	3: どちらともいえない	
	問6	問1で「はい」と答えた方のみお答えください。予習を行ったことで問題意識を持って授業に臨めたと思いますか。	1: はい	2: いいえ	3: どちらともいえない	
	問7	問1で「はい」と答えた方のみお答えください。予習を行ったことで知識・技術の定着につながったと思いますか。	1: はい	2: いいえ	3: どちらともいえない	
	問8	問1で「いいえ」と答えた方のみお答えください。予習を行うことで授業の興味が薄れると思った。	1: はい	2: いいえ	3: どちらともいえない	
	問9	問1で「いいえ」と答えた方のみお答えください。予習をしても授業でやるから無駄だと思った。	1: はい	2: いいえ	3: どちらともいえない	
	問10	問1で「いいえ」と答えた方のみお答えください。予習は面倒くさいと思った。	1: はい	2: いいえ	3: どちらともいえない	
	問11	問1で「いいえ」と答えた方のみお答えください。問8～10以外の理由があればご記入ください。				
ドリルについて	問12	問2で「ドリル」を選択した方のみお答えください。ドリルは授業の予習として効果的であったと思いますか。	1: はい	2: いいえ	3: どちらともいえない	
	問13	問12で「はい」と答えた方のみお答えください。効果的であったと回答した理由をご記入ください。				
	問14	問12で「いいえ」「どちらともいえない」と答えた方のみお答えください。いいえ、どちらともいえないと回答した理由をご記入ください。				

プレテストについて	問15	プレテストは、技術の根拠や手順の確認など技術の修得に役に立ったと思いますか。	1: はい	2: いいえ	3: どちらともいえない		
	問16	問15で「はい」と答えた方のみお答えください。役に立ったと回答した理由をご記入ください。					
	問17	問15で「いいえ」「どちらともいえない」と答えた方のみお答えください。いいえ、どちらともいえないと回答した理由をご記入ください。					
	問18	プレテストの難易度は妥当だったと思う。	1: はい	2: いいえ			
	問19	問18で「いいえ」と答えた方のみお答えください。難易度は妥当ではないと判断した理由をお選びください。	1: 難しかった	2: 易しかった			
	問20	プレテストの量は妥当だったと思う。	1: はい	2: いいえ			
	問21	問20で「いいえ」と答えた方のみお答えください。量は妥当ではないと判断した理由をお選びください。	1: 多かった	2: 少なかった			
技術評価表について	問22	技術評価表を使用した学内実習は技術の修得に役に立ったと思いますか。	1: はい	2: いいえ			
	問23	問22で「はい」と答えた方のみお答えください。役に立ったと回答した理由をご記入ください。					
	問24	問22で「いいえ」と答えた方のみお答えください。役に立たなかったと回答した理由をお選びください。	1: 評価表の内容がわかりにくかった	2: 評価表を使用することで混乱した	3: 評価表が使いづらかった	4: 評価表が無くてもテキストだけで習得できた	5: 評価表で指定した実施回数が不足していた
	問25	問22で「いいえ」と答えた方のみお答えください。問24以外の理由があればご記入ください。					
技術練習について	問26	授業時間以外に診療の補助技術の練習を行いましたか。	1: はい	2: いいえ			
	問27	問26で「はい」と答えた方のみお答えください。自主的に練習した回数をお選びください。	1: 1、2回	2: 3、4回	3: 5、6回	4: 7、8回	5: 9回以上
	問28	問26で「いいえ」と答えた方のみお答えください。自主的に練習を行わなかった理由に当てはまるものをお選びください。	1: 授業だけで技術が習得できたため	2: 練習方法がわからなかった	3: 時間がなかった	4: 面倒くさかった	5: 技術を練習する必要性を感じなかった
	問29	問26で「いいえ」と答えた方のみお答えください。問28以外の理由があればご記入ください。					
技術の修得	問30	看護技術Ⅱで学んだ診療の補助技術の原理・原則は修得できましたか。	1: はい	2: いいえ	3: どちらともいえない		
	問31	問30で「いいえ」「どちらともいえない」と答えた方のみお答えください。いいえ、どちらともいえないと回答した理由をご記入ください。					

ご協力ありがとうございました。

